

74 新たに確定した「乳巖姓名録」中の

患者二三名の歿年月日について

松 木 明 知

呉秀三の著書中の「乳巖姓名録」には合計一六五症例が列挙されている。最古は「文化元年（一八〇四）正月念九日の紀州広田村喜兵衛」であり、最新は「嘉永元年十一月六日和州武上郡慈恩寺村佐兵衛」である。

青洲は天保六年（一八三五）十月に没しているからこれ以降の九例とまた最初の三例は手術を行っていないので、青洲による手術を受けたのは一五三例となる。さらに一五三例中、再発が六例、三発が二例あるから、患者数としては一四三人となる。

演者は昨年の本学会大会で、右の一四三人中、歿年月日を確定出来た十人について述べたが、その後も鋭意探索に努めた結果、さらに二十三人について歿年月日を明らかにしたので報告する。

「乳巖姓名録」は多くの弟子によつて記入されているため誤記が多い。地名が特定出来ないそれ以上の追跡は不可能である。出身地が特定できれば、その地区に存在する寺院を調査し、その村落の人たちの菩提寺がどこか特定出来る。必ずしも村落に一寺とは限らないのちろんである。この寺にまず手紙を出して「乳巖姓名録」中の「姓名」と手術年月日（必ずしも正確でない）を伝え、「続柄」からその家族関係、歿年月日などから該当人物を特定する。

このようにして過去三十年間問い合わせをした寺院は全国で二千ヶ寺以上になる。この調査を続ける内、現地調査を頻繁に行うことによつて、探索の能率は大いに上り、新規に二十三人の歿年月日を確定することが出来た。一四三人中三三人で、全体の二三・八%になる。菩提寺が特定出来てもプライバシーの保護のため、調査を拒絶された例もあり、右の数値が限界と思われる。

新規に歿年月日を確定出来たのは次の通りである。頭の数字は「乳巖姓名録」の仮の通し番号である。

一五、傳兵衛内、一六、京屋幸作母、二二、徳右衛門内、二六、黒山治右衛門内、二八、喜代八内、四四、平井太郎兵衛内、六一、新兵衛妻、六六、松田屋佐兵衛内、七五、松本弥右衛門妻、七九、光村寺室、八七、金屋角兵衛内、九三、辻右衛門内、九七、重藏内、一〇三、仲右衛門内、一〇五、久兵衛内、一〇六、早川七九郎内、一〇九、五郎右衛門内、一二三、甚藏母、一二六、総屋千助内、一三四、弥兵衛妻、一三八、丸木屋勘兵衛 后室、一四四、島川彦右衛門

右の中、確定するまでの経過を二例示して解説する。

七九の「房州味形 光林寺 室」は地名に誤記があり、「船形」が正しい。「光林寺」は誤記であり、これは「光林妙弥尼」を誤って「光林寺 内」としたものである。

一三四「南部埴田村、弥兵衛 妻」は、「乳巖姓名録」の住所の冒頭は「国名」であるので、みちのくの「南部」と考え、南部に地名を求めた。しかし南部に「埴田村」はない。結果的に「南部」は紀州の「南部(みなべ)」であり、同所に埴田(村)が存する。埴田(村)の人たちの

菩提寺は、同地の菩提寺であり、患者は容易に判明した。

以上合計三人の歿年月日を確定出来たが、彼らがすべて癌の再発で死亡したかどうかは明らかでない。他の疾患や事故のため死亡した可能性も十分考慮しなければならない。従って術後の生存期間を計算することに慎重でなければならぬが、大凡二〜三年と考えられ、進行的な状態で手術を受けた例が多く、一五〇年前という時代を考慮すれば、それなりの成果を挙げたと評価したい。

(弘前大学医学部麻酔科)